

マネル・ケラル
(MANEL QUERALT)

バクー
苦悩する者

カタルーニャ語－スペイン語－日本語版
日本語訳

木村有紀子
(YUKIKO KIMURA)

まえがき

この本を手に取り表紙を開けて、サグラダファミリアの螺旋階段の写真を見た時、読者の方々はどんな印象を受けるだろうか。地の底に果てしなく沈んでいくようにも、或いはまた、延々と終わり無い天空を求めて上へ昇っていくようにも感じるのだろうか。

このサグラダファミリアは、スペインの北東部にあるカタルーニャ地方が生んだ奇才の建築家アントニオ・ガウディの作品の一つであり、その螺旋階段は一本ではなく、現在完成している八本の塔（鐘楼）の中を蟻の巣のように巡っている。ガウディはこの螺旋階段を通じて、一つの目的に達する道は一つではなくあらゆる道が一つの目的へと導いていくのだという考えを表そうとしたと言われている。

今では、毎日何千人もの観光客がこの螺旋階段を上がり降りしているので、サグラダファミリアを訪れ、塔にも上ったことのある読者の方々はまた違った印象を受けたかもしれないが、殆ど人が訪れることもなかった頃のサグラダファミリアの螺旋階段の中は、一種不思議な空間で神秘的な雰囲気すら醸し出していた。このような空間に人が住んだりできるものだろうか。

読者の方々は読み進むうちに、作者のマネル・ケラルはバクーという人物に、人間の一生を投影しているのだと気が付かれるだろう。作者は登場人物であるバクーを通じて人間の一生を表現すると同時に、現在の我々が送っている一生に対する批判も込めているのである。つまり、もしバクーの人生が人間の一生を表しているのだとすれば、我々は彼の行動や振る舞いの中に一度でも

何か知性のひらめきを垣間見ることができるだろうか。最後の瞬間にバクーは自分の人生に起こったことを全て認識し、まさにその最後の瞬間に自分に絶え間ない苦しみを与え続けた『運命』を許容し、自分の人生を達観しているという印象を与えている。強いて言うなら、彼なりの知性を示した唯一の瞬間とすることができる。

また、自分と同じような姿をした何者かとセックスをする場面が出てくるが、それは言わば『シャドウボクシング』のように自分の影との『シャドウセックス』でしかなく、興奮しきったバクーのその後の自慰行為は彼に苦痛以外のものは何ももたらさなかった。つまり、そこには何の実りもない不毛な行為しか存在しないのである。

ここでマネル・ケラルは現在の我々が日々の営みを送っている空間、物や食料が溢れている『豊かな生活』と言う名の空間をバクーが過ごした螺旋階段の空間と比較しているのである。我々は、その空間に例えられた人生の中で文化的には何も啓発されることもなく過ごし、毎日同じ事を繰り返し、年老いて何も得ることもなく生み出すこともなく死んでいく人生を送っているのである。その意味で、マネル・ケラルの作品は今現在の我々の生活や人生への警鐘とすることができるだろう。

しかし、恐らく、読者はこの作品を読み始めて前半は理解しにくいものを感じるだろう。これは作者のマネル・ケラルはカフカからインスピレーションを受けた回りくどい表現が好きで、わざとそれを多用しているからである。読者の方達が読み始める前に正直に言わせて頂くなら、訳者にとっても前半は時にはそのイメージを捉えるのが難しく、訳すのに苦労した部分である。

とは言うものの、この文章から谷崎潤一郎の随筆『文章読本』の一節を思い出すことができる。その随筆の中で谷崎は、文章の調子を《流麗な調子》、《簡潔な調子》、《冷静な調子》、《飄逸な調子》と《ゴツゴツした調子》の五つに分けている。

谷崎に拠ると、《ゴツゴツした調子》で書かれた文章は悪文だという感じを受ける。しかし、これは言うならば、読みながら岩だらけの険しくて通るのが大変な道を歩くような印象を受けるわけである。しかしながら、このような歩きにくい道にも例えられるような読みづらい文章を読んだ後には、より力強くてはっきりとした印象が残るのである。逆に、《流麗な調子》の文章を読んだ読者は一気に読んでしまうこともできるが、その代わり読後には何も覚えていない、ということにもなるわけである。¹

つまり、この作品の最初の部分は作者のケラルがまるで谷崎言うところの《ゴツゴツした調子》を使ったようなもので、くねくねと曲がりくねった険しい薄暗い道を進んで行くような印象を受けるだろうし、それは正しくこの作品の主人公であるバクーが住んでいる世界にも結びつくのである。しかし、後半に入るとずっと読みやすくなり、それは《流麗な調子》で書かれているようでもあり、そこまで辿り着いた読者の方達の前にはそれまでの《迷いの闇》は晴れており、もう手探りで読み進む必要はなくなるだろう。

ここで言えることは、マネル・ケラルはこの作品の中で二つの調子を折衷するというスタイルを取って

¹ 谷崎潤一郎著『文章読本』より引用。中央公論社より1934年初版

いる。この異なる二つの調子を取り入れることで、作品の流れにはっきりとしたコントラストが生まれ、それによって読者は終始続く回りくどい表現に疲れることなく作品の世界に入りこめる効果を生んでいる。

話は替わるが、ここでカタラン語に関して簡単にご紹介しておく。カタラン語はラテン語から派生したロマンス語に属する言語で、世界中で約950万人の人々に話されている。18世紀以来、カタラン語の公的な使用は何度か禁止されたことがあるが、一番最近ではプリモ・デ・リベラ将軍の独裁統治下（1923-1930）とフランコ将軍の独裁統治下（1939-1975）においてである。カタラン語の存在はすでに9世紀まで遡ることが文献などによって立証されているが、13世紀初めに著名な言語学者ラモン・リユーイ（1232-1316）の功績によって文学的な言語に位置づけられるまでその言語的価値は認識されていなかった。今日では、カタラン語はヨーロッパ、アメリカ、中南米諸国の数多くの大学で講座が設けられており、日本でも多くの語学センターで研究が進められている。

本書が読者の方々にカタルーニャ地方にはサグラダファミリアなどの観光モニュメントのあるバルセロナだけでないことを知らしめることができ、またカタルーニャ地方の言葉であるカタラン語を少しでも知って頂ける参考になって、この土地の文化や歴史に少しでも興味を抱いて頂ける契機になれることを心から望んでおり、またその一助になれたなら、訳者としてこの上ない喜びである。

木村有紀子

2008年1月吉日、バルセロナにて

バク
苦悩する者

Una escala de cargol amb graons
de pedra encadenats entre parets
i un sostre no pas alt d'un passadís
esgarrapat, perforat a la roca,
on l'ull no travessa la superfície
potser l'arrodoneix, en dona forma,
però no descobreix els seus misteris.
Es podria especular si un alè
d'energia bufà sobre un polsim
de matèria primera i si va
donar lloc a una vida i si després
aquest combinat va experimentar
canvis decisius i extraordinaris
per esdevenir llavors una imprecisa
i caragolada evolució
que ens duqués amb un cert convenciment
fins aquí, l'instant d'aquesta història.
Potser ens extralimitariem si
plantegéssim que, aquells anomenats
a partir d'ara éssers vius, es van
succeir un rere l'altre i ho van fer
seleccionant-se entre ells els més aptes
i deixant de banda els menys adaptats.
Éssers molt antics i indeterminats,
que no podem assegurar que van

(catalan)

Una escalera de caracol con peldaños
de granito encadenados entre paredes
y un techo no demasiado alto de una galería
arañado, perforado en la roca,
donde el ojo no atraviesa la superficie;
quizá la redondea, le da forma,
mas no descubre sus misterios.
Se podría especular si un aliento
de energía sopló sobre una pizca
de materia prima y si dio
lugar a una vida y si después
ese combinado experimentó
cambios decisivos y extraordinarios,
para luego convertirse en una imprecisa
y trezada evolución
que nos llevase con cierto convencimiento
hasta aquí, al instante de esta historia.
Tal vez nos extralimitaríamos
si planteásemos que, aquellos denominados
a partir de ahora seres vivos,
se sucedieron uno tras otro y lo hicieron
seleccionándose entre ellos los más aptos
y dejando a un lado a los menos adaptados.
Seres muy antiguos e indeterminados,
que no podemos asegurar que existieron

(spanish)

壁と壁の間を続いていく御影石でできた螺旋階段と、
岩を削り貫いて掻き削ったような通路のある余り
高くない天井。そこは多分、丸味を帯びた形を
与えているその表面に人の目が届くことはないが、
そこにある秘密をも誰にも見せようとしなかった。
エネルギーの吐息がその石のほんの僅かな部分の
上を吹き抜けて行ったのか、或いは一つの命を与える
ことになったのか、または歴史のこの瞬間に、その
後でこの混ざり合ったものがここまである種の確信を
もって我々を引きつけてきた曖昧で解きほぐされた
進化に置き換わるために、決定的で驚嘆すべき変化を
味わったのかを深く考えさせられるだろう。
恐らくこれから先、あの話に出てきた生きている
もの達が次から次へと現れては能力のあるものを
選別し、そうでないものを横に押しつけるような
ことを考えたとしたら、それは我々としては限度を
越えたことをしてしまうのだろう。
存在していたとは断言できないような非常に古い
生き物達や不特定の生き物達。

existir, perquè mai ningú els ha vist
ni en tenim cap indici fidedigne.
Fins i tot arribaríem a concloure
sense por a desviar-nos massa
de la realitat, que aquells éssers,
en contra del que es pugui pensar
sobre la més que improbable existència,
van perforar una escala dins la roca.
Així mateix podríem imposar-nos
la tasca descomunal d'intentar
desxifrar un motiu per petit que sigui
sobre el *per què* de l'inici d'una obra
com la que aquí es es fa servir a tall d'exemple.
Però el passat se'ns mostra tèrbol
i ens és impossible determinar
quines van ser les causes i per tant
haurem de tragar a coll el feixuc
desconeixement d'aquells orígens:
tot el que s'atribueix a l'escala
se'ns escapa com també els seus inicis.
No sabríem afirmar si a dins tot
és fosca, potser ens equivocaríem
perquè no estem gaire segurs, però
a l'interior hi vivia una llum
somorta que no se sap d'on sorgia:
d'una font incerta i desconeguda,
una lluminositat absorbida

(catalan)

porque nunca nadie los vio
ni disponemos de vestigio alguno.
Incluso en contra de lo que se pueda
pensar sobre su más que improbable
existencia y sin temor a alejarnos
demasiado de la realidad,
concluiríamos que esos seres
perforaron una escalera en la roca.
Asimismo podríamos imponernos
la descomunal tarea de intentar
descifrar un motivo, por pequeño que sea,
sobre el *porqué* del inicio de una obra
como la que aquí se muestra a modo de ejemplo.
Pero el pasado se nos muestra turbio
y resulta imposible determinar
cuáles fueron las causas y, por lo tanto,
tendremos que llevar a cuestras
el desconocimiento de aquellos orígenes:
todo lo relacionado con a la escalera
se nos escapa, incluidos sus inicios.
No sabríamos afirmar si dentro todo
es oscuridad; quizá nos equivocaríamos
porque no estamos muy seguros, pero
en el interior vivía una luz
mortecina que surgía de no se sabe dónde:
una incierta y desconocida fuente,
una luminosidad absorbida

(spanish)

何故なら、誰も彼らを見たことはないし、信用
するに足りる形跡をつかんでいるわけでもないし、
さらには、我々としては現実からはそんなにも
懸け離れていると恐れることなく、まずまず起こり
えないその生き物達の存在について考え得ることに
反して、彼らが岩の中に階段を削り貫いたのだと
いう結論に達するだろう。
それと同時に、ここに例として使っているような
仕事の始まりの『何故なんだろう？』について、
それがどんなに小さな動機であれ、その謎解きに
取り組んでみるというとてもない大仕事を
自分自身に課することができるだろう。
しかし、過去は私達の前に曖昧な姿でしか現れて
くれないし、何が原因だったのか特定することは不可能な
ことで、だから自分達としてはその根源を知らない
という事実を背中に負って行かなければならない
のだった。つまり、階段に属すると考えられる
ものは全て、その始まりのように我々の前から
逃げてしまうのだった。
私達には中が全部真っ暗だと肯定することは
できなくて、多分、はっきりとしたことは分から
ないので間違ってしまうかもしれないだろう。
しかし、内部にはどこから発しているのか分からない
弱々しい光りが差しているのだった。
それは、不確かな見知らぬところから出てくる
光りで石の肌に何世紀にも亘って染みこんだ

durant segles pels porus de la pedra.
Podem conjeturar que una vegada
allí dins no sabríem que podria
passar si imprudent algú es decidís,
—no endevinaríem per quins set sous—
a enfilat el túnel i pujar l'escala.
Ara bé, doncs, segur que ens sorprendria
si ens afirmessin en contra de tot
pronòstic que resulta inversemblant
però cert que algú habita dins la roca.
Provinent de no se sap quin llunyà
racó, sense intuir d'on, alguna
cosa remunta des del més profund
de la foscor, que ens és desconeguda.
.....
«...Dos-cents cinquanta-tres mil vint-i-tres
dos-cents cinquanta-tres mil vint-i-quatre
dos-cents cinquanta-tres mil vint-i-cinc...
Ep alerta pensa pensa perquè
sempre que arribes a aquest punt et perds
i has de tornar a començar el recompte.»
.....
Que sentim una veu d'algú que parla?
No ens sorprèn, confirma el que ja intuïem.
No creiem, però, que es tracti d'algun
d'aquells éssers esmentats al principi
minaires de mena que per la dura

(catalan)

durante siglos por los poros de la piedra.
Podemos conjeturar que una vez
allí dentro no sabríamos qué podría
suceder si, imprudente, alguien se decidiera
—no adivinaríamos a santo de qué—
a ascender por túnel y subir la escalera.
Pues bien, seguro que nos sorprendería
si nos afirmasen en contra de todo
pronóstico, que resulta inverosímil
pero cierto, que alguien habita en la roca.
Procedente de no se sabe qué lejano
rincón, sin intuir de dónde, alguna
cosa que nos es desconocida remonta
desde lo más profundo de la oscuridad.
.....
«... Doscientos cincuenta y tres mil veintitrés
doscientos cincuenta y tres mil veinticuatro
doscientos cincuenta y tres mil veinticinco...
¡Ojo! ¡Piensa! Piensa por qué
te pierdes siempre que llegas a este punto
y tienes que volver a empezar el recuento.»
.....
¿Acaso oímos una voz de alguien que habla?
No nos sorprende, confirma lo que ya intuíamos.
Pero no creemos que se trate de uno
de esos seres aludidos al principio,
de naturaleza mineros, que por la dura

(spanish)

明かりだった。
もし誰かが軽率にも（何故そんなことをするのかは
測り知れないだろうが）トンネルに入り込み、階段を
上がろうとしたなら、ひとたび中に入った時に一体何が
起こり得るのか分からないことを推測できるのだった。
さてそこで、本当だとは思えないあらゆる予測に反して、
肯定されたならば私達が驚くのは確実なことだったが、
しかし、誰かが岩の中に住んでいるのは間違いなかった。
どんなに遙か遠い彼方から来たのかも分からず、それが
どこなのかを感じ取ることもなかったが、それは我々に
とっては未知の暗闇のずうっと深いところから遡ってきた
何かだった。

.....
《. . . にじゅうごまんさんぜんにじゅうさん、
にじゅうごまんさんぜんにじゅうよん、
にじゅうごまんさんぜんいじゅうご. . .
おい、気を付けるんだぞ。 何故、ここでいつも
お前さんは混乱して、また数え直すはめになる
のかよおくよおく考えるんだぞ》。

.....
誰かが話してる声が聞こえるって？
すでに予感していたことが本当だと分かっても私達は
驚きもしなかった。
でも、その辛い作業の性質から、最初に話に出た非常に
粗野であるだろうと思われる天然の鉱物性の生き物の
どれかのことだとは思えなかった。

tasca que feien degueren ser molt rudes sinó d'una espècie més evolucionada més sensible que segurament, i aviat estariem d'acord, si a aquest habitant novell, a aquest ésser, l'anomenéssim home. Podríem, doncs, pensar o imaginar que un dia malaguanyat o no sempre hi ha opinions per a tots els gustos perquè mai no ens posariem d'acord sobre si s'ha pogut escollir o no a voluntat venir a un món estrany, un home –dèiem– va anar a raure no endevinem com, enmig de les tenebres. Per primer cop hauria obert els ulls de bat a bat per xuclar amb avidesa imatges endins el petit cervell i si hi haguéssim estat testimonis presencials, fortuïts, li podríem haver entrevist un innocent somriure. Però i pel que a nosaltres ens afecta mai no hem escoltat plors de criatura ni un d'aquells sons guturals de nadó. Per tant, no ens podríem referir a cap naixement en concret. El més probable és que es tracti d'algun home, però no ho tornarem a dir, només sabrem

(catalan)

tarea que hacían debieron de ser muy rudos, sino de una especie más evolucionada, más sensible: seguramente, pronto estaríamos de acuerdo, si a este habitante primerizo, a ese ser, lo llamaríamos hombre. Entonces podríamos pensar o imaginar que un día desafortunado, o no –siempre hay opiniones para todos los gustos porque nunca nos pondríamos de acuerdo sobre si pudo elegir o no a voluntad llegar a un mundo extraño–, Un hombre, decíamos, fue a parar, no adivinamos cómo, en medio de las tinieblas. Por primera vez habría abierto los ojos de par en par para sorber con avidez imágenes dentro de su pequeño cerebro y si hubiéramos sido testigos presenciales, fortuitos, le podríamos haber entrevisto una inocente sonrisa. Pero, y por lo que a nosotros respecta, nunca oímos llantos de criatura alguna, ni siquiera esos sonidos guturales de bebé. Por lo tanto, no podríamos aludir a ningún nacimiento en concreto; lo más probable es que se trate de algún hombre pero, no lo volveremos a decir, tan sólo sabremos

(spanish)

むしろ、もっと発達を遂げたより繊細な生き物であって、もしこの新参者の住人を人間と呼ぼうとするのであれば、きっと近いうちに私達がそれを認めるだろうというのは間違いなかった。そこで、見知らぬ世界にやって来ることを自分の意志で選べたかどうかということや、どうして人間が暗闇の中に留まろうとしたかを予想しなかっただろうということにに対して絶対に我々の意見は一致しなかっただろうから、思うようにいかない日や、或いは、いつも皆の好みに合う意見があるわけではないと考えたり想像したりできることだろう。彼は目に映る物をその小さな脳みその中に食欲に飲み込もうとして初めて目を大きく開いただろうし、そしてもし偶然にも我々がその場に居合わせたなら、彼のその無邪気な微笑みを垣間見たことができただろう。しかし自分達の関知するところでは、子供が立てる泣き声も赤ん坊が喉を鳴らす音も聞いたことはなかったので、具体的に誰かが生まれたと言うことはできないはずだった。最もあり得ることは、誰か人間のことを言っているのだろうけれど、自分達はそれを二度とは言わないし、ただそれは

que és dèbil que si s'aboca a l'abisme del viure, finalment sucumbirà.

Encara ara no intuïm el seu nom.

Aquesta escala existeix perquè Vacu l'habita i mentre hi visqui existirà.

Ara bé, si surt, només en el cas que aconseguís fer-ho, cosa que és impossible de desmentir, podria esvanir-se i córrer el perill extrem de potser mai més tornar-la a veure.

Així que mentre visqui a dins i vagi comptant els graons, sempre li serà possible tornar –amunt o avall– al punt que decideixi, però, si es despista, llavors podria perdre's dins la nit.

El comportament d'aquest Vacu és com el de qualsevol aprenent, cal que repeteixi fins a la sacietat totes les accions orientades a moure's per l'escala i a conèixer –abans de pensar en altres coses– el seu entorn, i, resumint, després d'una fonda i lenta digestió, a consolidar-les i fer-les seves.

I no massa a la lleugera potser i per tant seriosament pensés

(catalan)

que es débil y que si se asoma al abismo del vivir, finalmente sucumbirá.

Aún ahora no intuimos su nombre.

Esta escalera existe porque Vacu la habita y mientras aquí viva existirá.

Ahora bien, si sale –sólamente en el caso de que lograra hacerlo, cosa que no queremos afirmar o desmentir–, podría desvanecerse y correr el peligro extremo de quizá nunca más volver a verla.

Así que mientras viva dentro y vaya contando los peldaños, siempre le será posible volver, arriba o abajo, al punto que decida, pero si se despista, entonces podría perderse en la noche.

El comportamiento de este Vacu es como el de cualquier aprendiz: hace falta que repita hasta la saciedad todas las acciones orientadas a moverse por la escalera y a conocer –antes de pensar en otras cosas– su entorno y, resumiendo, después de una honda y lenta digestión, a consolidarlas y hacerlas suyas.

Y quizá no demasiado a la ligera, y por lo tanto seriamente, pensara

(spanish)

弱いもので、もし生きることの底知れない深みを覗き込んだなら、最後には挫けてしまうだろうということを知っているにすぎない。未だに、我々は彼の名前を知らないでいた。

この階段が存在するのはそこにバクーが住んでいるからで、彼がここにいる限り存在するだろう。さて、それを肯定も否定もしたくはないが、もし彼が外に出ることに成功した時にのみ外界に出たとして、その時には階段は消えてしまい恐らく二度と見るできないという究極の危機に直面することになるだろう。

だから、中にいて階段の数を数えているうちは、上に行こうと下に行こうと思うがままに往き来することができるが、もしうっかりと気を逸らしたらそのまま夜の暗闇に消えてしまうことだってあり得るだろう。

このバクーの行動はどこにでもいる見習いの動きのようなもので、他の事を考える前に階段を行ったり来たりすることや、自分の周辺を認識するという方向付けられた動きを何度も何度も嫌になるほど繰り返し要約して、その後の深く時間をかけた消化を通じて確固としたものにして自分のものにするのだった。

そして多分そんなに軽々しくにはなく、寧ろ、その傾斜は急だが単調な地形を特別な形で廻り

que podria recórrer aquell abrupte
però regular terreny, no només
de forma especial, sinó també
avançar amunt o avall el més possible
i, a més, comptar a mesura que ho fes,
sumant o restant un peu rere l'altre
retenint a la memòria la xifra
i per últim, i alhora, mantenir
els ulls i les orelles sempre alerta
a l'aguait de qualsevol petita
o amagada o insignificant pista,
no deixar res cap racó ni perfil
per investigar malgrat el continu
xantatge dels dubtes que té la ment.
Caldria provar com de sòlida era
i de ben feta estava aquesta escala.
Amb les mans temps i molta paciència
i com si d'un ritual es tractés
podria resseguir les pedres cada
plec cada reclau i acaronar
la superfície llisa o rugosa
tot deixant que aquestes sensacions
li arribessin directament al cervell.
.....
«...Quatre-cents trenta-dos mil vint-i-sis
quatre-cents trenta-dos mil vint-i-set
quatre-cents trenta-dos mil vint-i-vuit...»

(catalan)

que podría no sólo recorrer
ese abrupto pero regular terreno
de forma especial, sino también
avanzar arriba o abajo lo más posible
y, además, contar a medida que lo hiciera
sumando o restando un pie tras otro,
reteniendo en la memoria la cifra
y por último, y a la vez, mantener
los ojos y las orejas siempre alerta,
al acecho de cualquier pequeña
o escondida o insignificante pista;
no dejar nada, ningún rincón ni perfil,
para investigar a pesar del continuo
chantaje de las dudas que tiene la mente.
Debería probar cuán sólida era
y cuán bien hecha estaba la escalera.
Con las manos, tiempo y mucha paciencia,
y como si de un ritual se tratara,
podría recorrer las piedras, cada
pliegue, cada entrante, acariciar
la lisa o rugosa superficie
dejando que estas sensaciones
le llegaran directamente a la cabeza.
.....
«... Cuatrocientos treinta y dos mil veintiséis
cuatrocientos treinta y dos mil veintisiete
cuatrocientos treinta y dos mil veintiocho...»

(spanish)

巡って行けるだけではなく、できるだけ上に行ったり下に行ったりできること、さらには上がり下りしながら一歩一歩足したり引いたりして、数を記憶に留めながら数えて行くことや、また最後にはそれと同時に、どんなに小さな目印や隠されていた意味のない手がかりにもいつも目を凝らし耳をそばだてていること、そして絶え間なく頭の中から表れてくる疑いの脅しにもかかわらず、突き詰めるためにどんな片隅も輪郭も見逃さないでいるということを真剣に考えているかのようだった。この階段がどんなに固いか、どんなに上手く出来ているか試してみなければならぬだろう。時間と大変な忍耐を注ぎ込んで、まるでそれが儀式であるかのように、石の一つ一つの窪みや隅を両手で追って行き、そしてこの感触が直接頭脳に届くようにしながら、平らな或いはごつごつした表面を撫でることができよう。

.....
《... よんじゅうさんまんにせんにじゅうろく、よんじゅうさんまんにせんにじゅうなな、よんじゅうさんまんにせんにじゅうはち... 》

.....
Mantenia els hàbits perquè intuïa
aquella ferma creença en què d'alguna
manera així s'oposava a la marxa,
a la incerta i cruel fuga del temps.

En un moment de recés assegut
sobre un graó i apuntalant l'esquena
a la roca la seva ment remembra
trossets de passat sobre el sender
recorregut i a terra reflexiona
sobre els mètodes emprats.

Allà on el vam veure per primer cop
en un lloc indeterminat del temps
pensem que ja tenia un cert saber
que mai no vam poder identificar
i si des de llavors fins ara li suméssim
tots els coneixements que la seva raó
hagi pogut atrapar –que podrien
ser molt escassos i que creu li van
ser útils summament– podem percebre
que en la majoria d'ocasions
s'havia perdut per simple desídia,
un comportament que considerem
no demostra indicis d'intel·ligència
sinó d'una estupidesa increïble.

.....
Comença com una percepció

(catalan)

.....
Mantenía la rutina porque intuía
esa firme creencia en que de alguna
manera así se oponía a la marcha,
a la incierta y cruel fuga del tiempo.

En un momento de receso, sentado
en un peldaño y apuntalando la espalda
en la roca, su mente rememora
pequeños trozos de pasado sobre el sendero
recorrido y en el suelo reflexiona
sobre los métodos empleados.

Allí donde lo vimos por primera vez,
en un lugar indeterminado del tiempo,
pensamos que ya poseía un cierto saber
que nunca pudimos identificar
y si desde entonces hasta ahora le sumamos
todos los conocimientos que su razón
haya podido atrapar –que podrían
ser muy escasos y que cree le fueron
sumamente útiles– podemos percibir
que en la mayoría de las ocasiones
se perdió por simple desidia,
un comportamiento que consideramos que
no demuestra indicios de inteligencia alguna,
sino de una increíble estupidez.

.....
Al principio empieza como una leve

(spanish)

.....
習慣を守ったというのは、そうすることで不確かな
ものに進んで行くことや残酷にも滑り落ちていく
時間に何らかの形で対抗するのだという堅い信念を
感じ取っていたからだった。

石段に腰掛けて、岩に背をもたせかけて一休みして
いる時に、彼は頭の中で今までに駆け巡った道のりの
小さな記憶の断片に思いを馳せ、そして地面に腰を
落ち着けて自分の取った方法を思い返すのだった。
そこは時の流れの中で特定できない場所だったが
我々が彼を初めて見た場所で、決して確認することは
できないが、彼はすでにある種の知恵を身に付けて
いたと考えられているし、もしその時から今までに
彼の理性がつかみ得た全ての知識というのはほんの
僅かなものではあるが彼にとっては非常に有益だと
自分で信じ込んでいるものであって、それに付け足して
云うならば、その機会の大半において、それは知性の
かけらを示しているのではなく、信じられないような
愚かさだと見なすことができる行動を単なる不注意
から見誤ってしまったのだと認識することができる。

.....
いつ始まったのか、或いは、その感覚がなかった時が

lleu a l'inici i tot seguit creixent
que conté alguna cosa certament
de pruija i que no podem recordar
quan li va començar o si hi va haver
algun temps en el passat que no hi fos.
Suposem que senzillament no marxa
que hi ha un dolor que segueix Vacu s'instal·la
en els seus ossos, no desapareix.
Imaginem que és crònic i resulta
que és especialment insidiós
perquè treballa sempre gairebé
completament i constatat en secret
–infern que abraça el seu interior–
i no ho sabem però malaguanyat
probablement li afecti cos i ment.
No creiem que sigui important però
aquest nou dolor l'impedirà moure's
tant que fins i tot pujar un sol graó
li causarà un reguitzell de fiblades
punyents i del tot insuportables.
I podria cridar en silenci contra
aquest dolor que se li ha impregnat
des de temps immemorials podria
demandar clemència però no
li serviria de res perquè aquests
imperatius són inútils així
i tot hi ha un impuls incontrolable

(catalan)

percepción y acto seguido creciente,
que contiene alguna cosa ciertamente
de comezón y que no podemos recordar
cuándo empezó o si hubo
algún tiempo en el pasado en el que no estuviera.
Supongamos que sencillamente no se va,
que hay un dolor que sigue a Vacu: se instala
en sus huesos y no desaparece.
Imaginemos que es crónico y resulta
que es especialmente insidioso
porque casi siempre trabaja
completa y constantemente en secreto
–infierno que abraça su interior–
y no lo sabemos pero por desgracia
probablemente le afecte cuerpo y razón.
No creemos que sea importante, mas
ese nuevo dolor le impedirá moverse
hasta el punto que subir un solo peldaño
le causará un sinnúmero de agudas
punzadas del todo insuportables.
Podría gritar en silencio contra
ese dolor que se le ha impregnado
desde tiempos inmemoriales; podría
pedir clemencia pero no
le serviría de nada porque esos
imperativos son inútiles; incluso así
hay un impulso incontrolable

(spanish)

過去にあったのか思い出せないけれど、それは最初は
僅かな知覚のように始まり、そして直ぐに何かある
種のむず痒さを持っているものが大きくなっていくの
だった。
そしてただ単にそれだけでは止まらず、バクーに
付きまとっている痛みは彼の骨の中に深く澱んでいて
消えることはないのだと我々は思うことにしよう。
それは慢性的なもので、特別に陰険なものだと想像
することにしよう、何故ならそれは殆ど何時、如何なる
時にも密かにずうっと続けて動いているという、彼を
その内側から焼きつくそうとする地獄の苦しみで、
我々はそれについて知らないのだが、残念なことに
多分、彼の心と身体を冒しているのだろう。
大事なことだとは思わないけれど、この新たな苦痛は
階段を一段上がることすら引き裂かれるような
耐え難い鋭い痛み連続となって彼に襲いかかり、
彼を動けなくしてしまうだろう。
思い出せないほど昔からその身体中に充ち満ちていた
この痛みに対して、彼は心の中で叫んだり許しを乞う
ことはできただろうが、しかしそれは何の役にも
立たないだろう。何故ならそのような切なる願いは
無意味なだけではなく、答えを得ようとする抑えがたい

que el porta a provar a reclamar respostes però no rebrà paraules només silenci i un pur i horrorós sofriment.

S'havia apoderat conquesta rere conquesta de l'espai d'aquesta escala que habitava i Vacu es considerava capacitat per dominar-la en tota l'allargada i cargolada amplitud.

A vegades potser però molt poques admetia sentir-se realment ufanós i enaltit i amb renovades forces perquè pensava que podria apropiarse de les seves recents descobertes noves capacitats i a mesura que conqueria el món —ara aquí recordem que es redueix al passadís perforat dins la roca— el reconeixia i també captava algunes d'aquelles lleis més senzilles que el governaven i així n'ampliava el coneixement del resclosit entorn per on i, per dir-ho amb una paraula poc pejorativa, vagarejava.

Però era també per aquest motiu quan sabia reconèixer els seus propis límits que es trobava cada cop més

(catalan)

que lo empuja a probar, a reclamar respuestas, mas no recibirá palabras, tan sólo silencio y un puro y terrible sufrimiento.

Se había apoderado conquista tras conquista del espacio de la escalera que habitaba y Vacu se consideraba capacitado para dominarla en toda su alargada y retorcida amplitud.

A veces, quizá, pero muy pocas, admitía sentirse realmente orgulloso y enaltecido y con renovadas fuerzas porque pensaba que podría apropiarse de sus recientes descubrimientos y nuevas capacidades y a medida que conquistaba el mundo —ahora y aquí recordemos que se reduce al pasadizo perforado en la roca— lo reconocía y de él creía sonsacar algunas de esas leyes más sencillas que lo gobernaban ampliando así el conocimiento del enmohecido entorno por donde y, por decirlo con una palabra menos peyorativa, deambulaba.

Pero también sabía por este motivo reconocer sus propios límites y que se encontraba cada vez más

(spanish)

衝動に駆られるだろうけれども、しかし誰も応えてはくれず、沈黙と全く恐ろしいほどの苦しみしか帰っては来ないだろう。

自分が住み付いているこの階段の空間を征服に次ぐ征服を繰り返して、我が物顔に占領したバクーはその長く曲がりくねった広がり全てを自分のものにする資格が自分にはあると考えたのだった。恐らくほんの数えるほどの回数だが、時々には本当に得意気に自信や新しく湧いてくる力に昂揚するのを感じるのだったが、それは最近発見した新しい能力を自分で思うようにすることができると考えたからで、それは岩の間に割り貫かれた通路に過ぎないのだが、その世界を征服していくにつれて、そして彼も自分を支配している最も単純な規則の幾つかを感知していることを認識していくにつれて、最も卑屈ではない言葉で言うなら、そうして彼が彷徨っている微くさい空間に関する知識を広げていったのだった。しかし、またこの同じ理由から、彼は階段がまだまだ包み隠しているかもしれない秘密の前に段々と小さく

empetitit davant els misteris
que encara podria amagar l'escala.
Se n'adonava de la delicada
situació en la qual es trobava.
Patia, l'angoixava no saber
quins altres sofriments l'atacarien
cruament i terrible més amunt.
Què es pot esperar d'un ésser tan fràgil?
Llavors calia que Vacu escollís
o seguir endavant tot i desconèixer
els més que probables perills
i assumir el dolor que l'acompanyava
sempre tan crònic i inevitable,
–tortura constant del cos i la ment–
o bé retrocedir i baixar l'escala
i en un moment de gran debilitat
deixar-se anar i caure, considerar
que no val la pena i deixar-ho estar.
Amagat dins la penombra sorgeix
la temptació d'anar cap enrere
de retrobar el que li és familiar
i conegut una manera aquesta
com qualsevol altra –sospitem
que l'única– de sentir-se segur.
Però si no li volguéssim donar
prou importància a les seves fràgils
mostres de records podria passar

(catalan)

empequeñecido delante de los misterios
que todavía podría esconder la escalera.
Se daba cuenta de la delicada
situación en la cual se encontraba.
Padecía, le angustiaba no saber
qué otros sufrimientos lo atacarían
cruda y terriblemente más arriba.
¿Qué se puede esperar de un ser tan frágil?
Entonces era necesario que Vacu eligiera
o seguir adelante a pesar de desconocer
los más que probables peligros
y asumir el dolor que lo acompañaba,
siempre tan crónico e inevitable
–tortura constante del cuerpo y de la mente–,
o bien retroceder y bajar la escalera
y, en un momento de gran debilidad,
dejarse ir y caer, considerar
que no vale la pena y dejarlo estar.
Escondido en la penumbra le surge
la tentación de ir hacia atrás
de reencontrar lo que le es familiar
y conocido, una forma esta,
como cualquier otra –sospechamos
que la única–, de sentirse seguro.
Pero, si no le quisiéramos dar
suficiente importancia a sus frágiles
muestras de recuerdos, podría pasar

(spanish)

なっている自分自身の限界を認識することも知っていた。
自分が置かれている微妙な状態に気付いていたのだった。
もっと上に進むと、他のどんな残酷で凄まじい
苦しみに襲われるのか見当の付かないことが彼を
苦しめるのだった。
彼のように弱い生き物に何を期待することができた
だろうか？
そこで、バクーは確実に襲ってくるだろう危険すら
知り得ないで先に進んで行き、いつも慢性的に
しつこくつきまとっている絶え間ない心身への拷問
の痛みに甘んじるのか、或いは、後戻りして階段を
降りていき、この上もなく弱り果ててしまった
その瞬間には下に落ちるに任せてしまい、何も苦勞を
する値打ちはないんだと考えてなすがままに身を
任せてしまうのか選ぶ必要があった。
薄暗がりの中に身を寄せていると、後戻りして彼に
とっては手慣れた安全と感じられるどの方法でも
いいから、兎に角何か一つの方法（我々は、恐らく、
たった一つしか知らないと思っているけれど）を
また見つけようという思いに駆られるのだった。
しかし、もし彼がその弱々しい記憶力を見せる
ことを大切なことだと我々が思いたくないならば、

10

que Vacu no tingués una història, seria com si no hagués existit. Però ara no ho considerarem perquè seria una pèrdua estúpida de temps i perquè el que més interessa és seguir endavant, no descuidar el ritme. Un Vacu emprenedor es deixa portar per possibilitats desconegudes només entrevistes, deixar-se anar, abandonar-se connectar amb el món interior de l'escala afectiu i sensorial... Però dóna un cert estremiment o espant perquè l'instrument de la intuïció és capaç d'abocar passions incontrolables i il·lusions i inquietuds i angoixes. Llavors si Vacu volgués descobrir nous indrets caldria que penetrés escala amunt la incertesa gronxar-se en el dubte i aprofundir i prendre part sobre una de les accions possibles i després, un cop temptejat el nou camp d'acció i un cop aconseguida certa clarividència, actuar. Les accions d'aquest pla que preveia seguir les retenia en la memòria, si eren encertades les tornaria

(catalan)

que Vacu no tuviera una historia; sería como si no hubiera existido. Pero ahora no lo consideraremos porque sería una estúpida pérdida de tiempo y porque lo que más interesa es seguir adelante, no descuidar el ritmo. Un Vacu emprenedor se deja llevar por posibilidades desconocidas, tan sólo vislumbradas; dejarse ir, abandonarse, conectar con el mundo interior afectivo y sensorial de la escalera... Pero produce un cierto estremecimiento o pavor porque el instrumento de la intuición es capaz de verter pasiones incontrolables e ilusiones e inquietudes y angustias. Entonces, si Vacu quisiera descubrir nuevos lugares, sería necesario que penetrara, escalera arriba la incertidumbre, balanceándose en la duda y profundizando y tomando parte en una de las acciones posibles y después, una vez tanteado el nuevo campo de acción y conseguida cierta clarividencia, actuar. Las acciones de este plan que preveía seguir, las retenía en la memoria; si eran acertadas las volvería

(spanish)

バクーは自分の語るべきものを持っていないのだとやり過ぎてしまうことができ、彼はまるで存在しなかったかのようにになってしまうだろう。しかし、我々が今そうは考えていないというのは、そう考えることは馬鹿げた時間の無駄になるだろうし、それに最も興味があるのは前に進むことであり、調子を崩すことではないからだった。前向きなバクーは僅かにほの見える見知らぬ可能性に身を任せて流されて行き、階段の情緒的で感覚的な内的世界と結びつくがままに任せて連れ去られて行こうとしていた. . . 。しかし、本能という機械はそこに抑えることのできない情熱や幻想や不安や苦悩を注ぎ込むことができるので、ある種の身震いや恐れを生じさせるのだった。そうするならば、もしバクーが新しい場所を見つけたいと望めば、階段を上に向かって、疑問の波に揺さぶられながら、深みを究めながら、取り得る行動のそれぞれに参加しながら昇っていく必要があり、さらには新しい行動の分野を手探りし、ある種の洞察力を身に付けた時に、しかるべき行動を取らなければいけなかった。彼が実行するつもりでいたこの行動の計画はその記憶の中に留められており、もし時宜を得たものであったなら、階段の他の部分でまた使うつもりだった

11

a fer servir en altres trams de l'escala i les rebutjaria si eren inútils. Més endavant quan l'estat de les coses ho demanés tornaria a recórrer a l'anterior estratègia a aquella que va permetre a Vacu enfrontar-se a situacions de molt semblants –com per exemple en les ocasions que podríem pensar massa seguides per la seva gran tendència a caure o ensopegar més de dues vegades per culpa del mateix graó una forma tradicional i molt coneguda per tots d'anomenar la incompetència– per superar novament entrebancs dolorosos i conflictius d'altres temps. Actuava tornava a avançar sempre capficat i sorrut tot esperant la descoberta la definitiva, la que li dugués la tranquil·litat a aquella seva turmentada ment: un monòleg que dispara una veu que resulta ser, dins la ment, un altre monòleg... i així repetidament molt endins del cap fins a l'infinit. Què l'inquietava, què l'empenyia i d'on provenia el desassossec?

(catalan)

a utilizar en otros tramos de la escalera y las rechazaría si resultaban inútiles. Más adelante, cuando el estado de las cosas lo pidiera, volvería a recurrir a la anterior estrategia, a aquella que le permitió enfrentarse a situaciones muy parecidas –como por ejemplo en las ocasiones que podríamos considerar demasiado seguidas, por su gran tendencia a caerse o tropezar más de dos veces por culpa del mismo peldaño: una forma tradicional y muy conocida por todos de nombrar la incompetencia–, para superar nuevamente escollos dolorosos y conflictivos de otros tiempos. Actuaba, volvía a avanzar pensativo y ceñudo esperando el descubrimiento, el definitivo, el que le diera tranquilidad a aquella atormentada mente suya: un monólogo que dispara una voz dentro de la mente que resulta ser otro monólogo... y así repetidamente en la profundidad de la cabeza, hasta el infinito. ¿Qué le inquietaba, qué le empujaba y de dónde procedía el desasosiego?

(spanish)

し、もし役に立たないものだったならば使わないつもりだった。もっと先になって、その時の状況がそれを必要とした時には、バクーは昔の苦しく困難だった障害をまた改めて乗り越えるために、以前の非常に似た状況、それは例えば、昔からよく我々は『無能力』と呼んできたように、同じ石段に何度もつまづいたり簡単に転んだりすることが頻繁にあったということに思いが行くのだが、そういったことに直面した時の作戦に戻るつもりだった。いつも不安げで不機嫌そうにしている、彼の痛めつけられた神経に安らぎを与えてくれる決定的な発見を期待しながらまた前進して行くのだった。頭の中で聞こえていた声が話し始めた一人語りは別のつぶやきを呼び起こし、そうして何度も繰り返し繰り返し、頭の奥深い処で無限に続いていくのだった。何が彼を不安にしていたのだろうか？ 何が彼を押しやり、どこから彼の動揺は出てきていたのだろうか？

12

.....
«...Sis-cents seixanta-quatre mil cent dos
sis-cents seixanta-quatre mil cent tres
sis-cents seixanta-quatre mil cent quatre...»
.....

Hi ha l'energia interna que el pertorba
si no pogués expressar ni descarregar
l'excitació que ara experimenta,
acabaria per greujar el seu mal.
Jeu i els graons se li claven al cap,
a l'esquena i a les natges, tanca els ulls
i deixa de pensar en el pas del temps.
Mentre la mà busca el membre adormit
s'acarona el gland i els testicles bruts
i imagina que algú igual de nu
—sols podria veure un ésser com ell
perquè no en té la imatge de cap altre—
l'amenaça amb el seu penis erecte
obre les cames per sobre i li fica
la verga dura a dins la boca oberta
i l'atrau perquè el masturbi
tot i agafant-lo pels cabells i fent-li
moure el cap per ajustar-la millor
a les necessitats del seu plaer
mentre Vacu l'engrapa per les natges
per ajudar a controlar l'investida.
S'exciten a fons tots dos, llarga estona.

(catalan)

.....
«... Seiscientos sesenta y cuatro mil ciento dos
seiscientos sesenta y cuatro mil ciento tres
seiscientos sesenta y cuatro mil ciento cuatro...»
.....

La energía interna lo perturba;
si no pudiera expresar ni descargar
la excitación que ahora experimenta,
acabaría por agravar su mal.
Tumbado, los peldaños clavados en la cabeza,
en la espalda y en las nalgas, cierra sus ojos
y deja de pensar en el paso del tiempo.
Mientras la mano busca el flácido miembro
se acaricia el glande y los sucios testículos
e imagina que alguien, asimismo desnudo
—tan sólo podría ver un ser como él
porque no tiene la imagen de ningún otro—,
lo amenaza con su pene erecto,
abre las piernas por encima y le mete
la dura verga en la boca abierta
y lo atrae hacia sí para que lo masturbe
cogiéndolo por la melena y haciéndole
mover la cabeza para ajustarla mejor
a las necesidades de su placer,
mientras Vacu lo agarra por las nalgas
y lo ayuda a controlar la embestida.
Se excitan los dos a fondo, largo rato.

(spanish)

.....
《ろくじゅうろくまんよんせんひやくに、
ろくじゅうろくまんよんせんひやくさん、
ろくじゅうろくまんよんせんひやくよん. . . 》
.....

彼を困惑させる内的エネルギーがあつて、もし今
感じている興奮を表現しぶちまけることができない
のであれば、彼の不快感はさらに膨れあがっていく
だけだろう。
身を投げ出したなら、石段が頭や背中やお尻に
突き刺さるように当たるので、彼は目を閉じて時の
流れについて考えるのを止めた。
片手がしょぼりしたペニスを探りあて、その先端
と汚れた睾丸を撫で回し、他の自分とは違った人を
想像できないので自分と同じような姿を思い浮かべる
のだったが、その誰か彼と同じように裸の男がその
そそり立ったペニスで脅すのを想像すると、その男
は彼の体の上で両足を開き、彼の口に固くなった
ペニスを突き入れ、彼の髪を掴んでは自分の方に
引き寄せ自分の快樂の要求に上手く合わせて彼の
頭を動かす一方で、バクーはその動きに調子を
合わせるために相手の尻にしがみつくのだった。
二人は、長い間、興奮の極みにいた。

13

A poc a poc Vacu sent a la seva
mà com aquell membre adormit
es desperta amb ganes de créixer i fer
valer la presència del desig:
el desenllaç és del tot previsible.
En el moment culminant el fals doble
desapareix i en el punt exacte
del no retorn ve l'espessa boirina
de l'orgasme i li ofusca cos i ment:
tota la sang es concentra al sexe.
Però de sobte perceb una fiblada
horrible com si ara li traspasessin
el penis amb una agulla gruixuda.
Fosos els dos, aquesta experiència
de dolor i plaer junts no es pot descriure:
una protuberància de carn
roja de sang i anormalment inflada
fins que exploti amb l'ejaculació
fins que dolli l'esperma i li empastifi
les mans i l'espès beuratge es dispersi
per terra: un final inapel·lable.
Després cargolat el cos pel turment
el cor recupera el ritme tranquil
i la respiració esdevé fonda.
Amb la cara tombada sobre un fred
graó Vacu reconeix el silenci
que arriba després de l'excitació.

(catalan)

Lentamente, Vacu siente en su mano
cómo aquel miembro adormecido
despierta con ganas de crecer y hacer
valer la presencia del deseo:
el desenlace es del todo previsible.
En el momento culminante, el falso doble
desaparece y en el punto exacto
del no retorno llega la espesa neblina
del orgasmo que ofusca su cuerpo y su mente:
toda la sangre se concentra en el sexo.
Pero de repente percibe una punzada
horrible como si le traspasaran
el pene con una gruesa aguja.
Fundidos los dos, esta experiencia
de dolor y placer no se puede describir:
una protuberancia de carne
sangrante y anormalmente hinchada,
hasta que estalle con la eyaculación,
hasta que mane el esperma y le pringue
las manos y el espeso brebaje disperse
por el suelo un final inapelable.
Después, retorcido el cuerpo por el tormento,
el corazón recupera el ritmo tranquilo
y la respiración se vuelve honda.
Con la cara torcida sobre un frío
peldaño, Vacu reconoce el silencio
que llega después de la excitación.

(spanish)

バクーはそのような垂れたペニスが如何に段々と
大きくなっていき、その欲望の存在を見せつけて
いるのを少しずつ自分の手の中に感じるのだったが、
その結末は目に見えていた。
クライマックスに達した時に、偽物のもう一人は
消え失せ、引き返す道もないその一瞬にオーガスム
の濃い霧に彼の身体も頭の中も包まれるのだった。
それは、全ての血液がセックスに凝縮される瞬間
だった。
しかし、突如として、まるで太い針が彼のペニスを
刺し貫くような凄まじい痛みを感じるのだった。
この痛みと快楽のふたつが溶け合った混ざり合った
経験を言葉で言い表すことができなかった。
それは、血の気を帯びた赤い肉の塊で、射精の
その瞬間に精子が吹き出して彼の手を汚し、どろりと
した液体が地面に飛び散る避けがたい最後の瞬間
まで異様に膨れあがるのだった。
苦痛に身を振らせた後、心臓は元の落ち着いた調子に
戻り、呼吸は深くなるのだった。
冷たい石段の上に顔を伏せて、バクーは興奮の後に
訪れる沈黙を認識するのだった。

14

El plaer és un regal que ve i se'n va i dura massa poc, instants efímers, però el sofriment té aquell gran poder de perdurabilitat al llarg del temps. Vacu es veu obligat a continuar aprenent a conviure amb el dolor.

Amb el pas dels dies s'imposa el deure íntim de pensar contínuament amb les pedres de no distreure's mai perquè l'oblit més insignificant podria redescobrir el seu turment i esdevenir –en un futur– intolerable. Potser Vacu s'enganyava pensant que aprendria massa coses però en veritat no sabem si seria capaç de fixar la mirada sobre les essencials i això li podria impedir de posar ordre al seu magí i d'assumir una actitud adequada vers ell mateix i l'entorn de l'escala, l'ambient semiobscur que l'envolta. Avançant, els graons no es queden, marxen. Diferents, s'ajorna el moment d'entendre'ls. En Vacu ha estat llarg temps confinat entre aquestes dues parets i ha hagut de dedicar gran part del seu esforç

(catalan)

El placer es un regalo que llega y se va y dura demasiado poco, instantes efímeros, pero el sufrimiento tiene ese gran poder de residir perdurable a lo largo del tiempo. Vacu se ve obligado a continuar aprendiendo a convivir con el dolor.

Con el paso de los días se impone el deber íntimo de pensar continuamente en las piedras, de no distraerse nunca porque el olvido más insignificante podría redescubrir su tormento y llegar a ser –en un futuro– intolerable. Quizá Vacu se engañaba pensando que aprendería demasiadas cosas, pero en realidad no sabemos si sería capaz de fijar la mirada sobre las esenciales y eso le podría impedir poner en orden su cerebro y asumir una actitud adecuada hacia sí mismo y el entorno de la escalera, el ambiente semioscuro que lo rodea. Avanzando, los peldaños no se quedan, se van. Distintos, se aplaza el momento de entenderlos. Vacu ha estado largo tiempo confinado entre estas dos paredes y ha tenido que dedicar gran parte de su esfuerzo

(spanish)

快樂は訪れては去っていく贈り物のようなもので、僅かの間、余りにもはかない間しか続かないものだが、苦しみはずっと長い間続くという恐るべき力を持っている。バクーは痛みと共存することを身に付けるしかなかった。

.....
日が過ぎて行くと共に、ほんの僅かな見過ごしが彼の苦しみをまた見つけだすかもしれないし、将来的には、それが我慢できないものになるかもしれないなかったので、石段のことを常に考え続けて決して気を逸らさないようにすることが心の底から必要になってきた。多分、バクーは余りにも沢山のことを覚えるだろうと思いながら自分で自分を騙していたが、実際には彼が根本的なことに目を留められる能力があるかどうかは我々にも分からなかったし、これが彼を取り巻く薄暗い環境である階段の周辺や自分自身に対する適切な態度を頭の中で整理し、認識することを邪魔するかもしれない。もし彼が階段を進んで行ったなら、階段はそこには留まっておらず、目の前からは消えてしまい、いつも違う石段があるということを理解するのを後回しにするのだった。バクーは長い間、この二枚の壁の間に閉じ込められていて、彼はその努力の大部分を全ての石段を足したり引いたりすることに費やされなければならなかったが、

15

a comptar i descomptar tots els graons
però tendirà encara a perllongar
aquesta actitud fins i tot després
dels anys quan ja no sembli necessària.
En veure's a ell mateix absorit només
en el constant i repetit recompte,
corre el greu perill de dedicar tota
l'energia a aquesta perseverança
i per tant d'obstaculitzar i empobrir
la recerca d'un *per què* a l'existència.
Vacu pensava que mai no s'havia
topat amb cap ésser com ell, o algú
de diferent, però en definitiva,
algú altre, i això li provocava
una enyorança estranya que podria
arribar a esdevenir somnambulisme.
Parlava tot sol i ho feia amb la boca
torçada com si es dirigís a algú
que caminés al seu costat però,
és clar, sabem que no hi ha ningú més.
I doncs, per què redimonis ho feia?
Temptejant els senders de la follia,
erràtic, s'extravia en el no-res
i la buidor que l'arrossega mostra
un ésser d'escassa seguretat
però amb la capacitat mínima
per conuiu amb totes aquestes nits:

(catalan)

a contar y descontar todos los peldaños,
pero aún tenderá a prolongar
esta actitud incluso después
de los años, cuando ya no parezca necesaria.
Viéndose a sí mismo absorto tan solo
en el constante y repetido recuento,
corre el grave peligro de dedicar toda
la energía a esta perseverancia
y, por lo tanto, a obstaculizar y empobrecer
la búsqueda de un *porqué* a la existencia.
Vacu pensaba que nunca se había
tropezado con ningún ser como él, o alguien
diferente, pero en definitiva,
con algún otro, y eso le provocaba
una extraña añoranza que podría
llegar a convertirse en sonambulismo.
Hablaba solo y lo hacía con la boca
torcida como si se dirigiera a alguien
que anduviera a su lado, pero,
claro está, sabemos que no hay nadie.
Entonces, ¿por qué demonios lo hacía?
Tanteando los senderos de la locura,
errático, se extravía en la nada
y el vacío que lo arrastra muestra
a un ser de escasa seguridad
pero con la capacidad mínima
para convivir con todas esas noches:

(spanish)

それはもっと何年も後に、もうそんなことをする
必要はないと思える時でも、それはずっと続く
ようだった。
絶え間なく繰り返される段数の数え上げることだけ
に没頭する彼自身を見ると、全てのエネルギーを
無理矢理にも注ぎ込む危険性があり、ひいては、
何故自分が存在するのかという問いかけへの探求を
妨げ貧弱なものにしてしまう危険性があった。
バクーは彼のような生き物、或いは彼とは異なった
生き物には一度も出会ったことがないと考えたが、
最終的にはその考えは夢遊病にすり替わってしまう
ような奇妙な懐かしさを彼に予感させるのだった。
彼は独り言を話し、それはまるで彼の横を歩いて
いる誰かに話しかけるかのように口を歪めて話すの
だったが、勿論、我々は誰もいないことを知っている
わけで、だったら一体何故そんな事をしたのだろうか？
彷徨える狂気の小道を探りながら、自分を引きずり
込む『無』と『虚空』の中に迷い込んだ彼は、
僅かな自信しか持ち合わせないが、自分よりも
上にも下にも生じる暗闇という、それら全ての夜の
世界と共存するための最低限の能力がある生き物
であることを見せつけるのだった。

16

la foscor que amunt i avall tragina.
El turmenten inútilment els actes
fútils i més irrelevantes, podríem
assegurar que s'obstinava a prendre's
molt seriosament no importa quin
minúscul i insignificant detall.
Si l'examinem amb lupa veurem
alguns instants congelats en el temps
que no aportaran res de nou excepte
un cos mutilat i el seu sofriment,
desproveït per complet de paraula.
Veurem com el seu dolor és tempestat
que explota violentament tancada
dins la carcassa del cos i la ment.
Vacu té sempre al costat el dolor
és amb i dins ell lluny de qualsevol
possibilitat d'observar-lo des de fora
i per tant de descobrir el seu origen.
Dents premudes i arronsades les celles
la mirada sorruda i els ulls naufragats,
el torb enmig de les ninets folles
i els pèls de punta i el crani esquerdat,
breus gemecs i un plor que demana auxili
dedins un cos botit d'esgarrifances.

.....
Quan meditava podia arribar
fins a una conclusió aproximada

(catalan)

las tinieblas que arriba y abajo trajina.
Lo atormentan inútilmente los actos
más fútiles e irrelevantes; podríamos
asegurar que se obstina a tomarse
demasiado en serio cualquier
minúsculo e insignificante detalle.
Si lo examinamos con lupa, veremos
algunos instantes congelados en el tiempo
que no aportarán nada nuevo excepto
un cuerpo mutilado y su sufrimiento,
carente de palabra alguna.
Veremos como su dolor es tempestat
que explota violentamente encerrada
en el armazón del cuerpo y de la mente.
Vacu siempre tiene a su lado el dolor.
Está con y dentro de él, lejos de cualquier
posibilidad de observarlo desde fuera
y, por lo tanto, de descubrir su origen.
Apretados los dientes y fruncidas las cejas,
hosca la mirada y naufragados los ojos,
la cellisca en medio de las pupilas locas
y los pelos de punta y el cráneo agrietado,
breves gemidos y un llanto que pide auxilio
desde un cuerpo henchido de estremecimientos.

.....
Cuando meditaba, podía llegar
hasta una conclusión aproximada,

(spanish)

つまらない行為やもっと見当違いな行いが彼を
無意味に苦しめるのだったが、彼は彼であらゆる
ごく些細で何の足しにもならないようなことまでも
余りにも真剣に受け止めることに執着しているの
だと我々は断言することができるだろう。
もしそれをつぶさに調べてみたならば、彼の
切り刻まれた身体や苦しみ、あらゆる言葉の全てを
失なったこと以外は何も見あたらない時の流れの
中に凍った瞬間がいくつかあるのを我々は見つける
だろう。
彼の苦しみは、身体と心という容器の中に閉じ込め
られていたものが激しく炸裂して起こった嵐の
ようなものだという風に我々は見なすだろう。
バクーはいつも自分と一緒に、或いは、彼自身の中
に存在する苦痛を自分の身近に置いていて、
外部からそれを観察する全ての可能性からは遠く
離れていて、つまりはそれがどこからやってきた
のかを見つける可能性からも離れていたのだった。
歯を食いしばり眉をしかめて、不機嫌そうな目付き
だけど、目そのものは虚ろで、狂気を帯びたその
瞳の真ん中には白い点が浮かんでいて、毛は逆立ち、
頭蓋骨にはひびが入り、絶え間なく震えている
体からは救いを求める短い呻き声とすすり泣きが
漏れるのだった。

.....
思いを巡らせた時には、その限りのある最低限の
知識にも拘わらず、その身を苛まれるように

si més no fins a un lleu pressentiment que tot i els seus ínfims i limitats coneixements hi cercava com sense voler-ho un absolut que embolcallés tota aquella angoixada solitud.

Arribava sempre, però, a la certesa que tots aquells raonaments que tant el capficaven li duïen només substituïts als quals era impossible reproduir el seu veritable nom.

Amarat de por la vacuïtat del temible *no-res* el posseïa: els sentiments que brollen d'un cor vençut s'aboquen i moren al fons d'un abisme del qual ningú reneix.

.....
«...Vuit-cents quaranta-cinc mil trenta-cinc vuit-cents quaranta-cinc mil trenta-sis vuit-cents quaranta-cinc mil trenta-set...»

Si ara caic, qui anirà ningú m'anirà al darrere. Quina és la provinença de la llàgrima de fel, de l'esput negre i l'humor dens?»

.....
Llavors emmudí de sobte i un tel blanc li cobrí els iris i ràpidament un llampec blau perforà les ninetes i la boira espessa envaí el cervell:

(catalan)

cuando menos a un leve presentimiento, de que, a pesar de sus ínfimos y limitados conocimientos, buscaba como sin quererlo un *absoluto* que envolviera toda esa angustiada soledad.

Sin embargo, llegaba siempre a la certeza de que todos esos razonamientos que tanto lo preocupaban sólo le proporcionaban sustitutos en los cuales era imposible recrear su verdadero nombre.

Empapado de miedo, la vacuidad de la temible *nada* lo poseía: los sentimientos que brotan de un corazón vencido, se asoman y se precipitan al fondo de un abismo del cual no renace nadie.

.....
«...Ochocientos cuarenta y cinco mil treinta y cinco ochocientos cuarenta y cinco mil treinta y seis ochocientos cuarenta y cinco mil treinta y siete...»

Si ahora caigo nadie irá tras de mí. ¿Cuál es la procedencia de la hiel, del denso humor y de los esputos negros?»

.....
Entonces emmudeció de repente y una binza blanca le cubrió los iris y rápidamente un relámpago azul le horadó las pupilas y la niebla espesa invadió su cerebro:

(spanish)

苦しい孤独の全てを包み込むような『絶対』をそれとは知らずに探していて、おおよその結論や、或いはある種の軽い予感にとられることがあった。しかし、いつもそれ程彼の気を揉ませるそれら全ての理由付けは、ただ単にその本当の名前を見つけることが不可能な彼の身代わりを連れてくるに過ぎないという確信に辿り着くのだった。恐怖のために汗びっしょりになり、恐るべき『無』の空虚さが彼を捕らえて離さないのだった。そして、その思いに捕らわれた心の中から湧き出てくる感情は現れては深い淵の底に落ちていき、そこからは誰も甦って来ないと彼は固く信じていたのだった。

.....
《はちじゅうよんまんごせんさんじゅうご、はちじゅうよんまんごせんさんじゅうろく、はちじゅうよんまんごせんさんじゅうなな...もし今、僕が倒れたら、誰も僕の後ろから来ないだろう。この苦しみはどこから来るのだろう、この黒い痰は？ このどろどろした唾はどこから出てくるのだろう？》

.....
そうして、突然、言葉を失い白い薄膜が眼の虹彩を覆い、たちまちのうちに青い稲妻が彼の瞳に穴を穿ち、濃い霧がその意識を包み込むのだった。

18

a l'interior les veus reneixien,
sabia molt bé el què significava.

vertigen mareig angouxa i deliri
visió de nens moribunds que xiscien

Aquell estat era com retornar
en si després d'una embriaguesa
produïda per l'efecte d'una droga.
Sentir el mal gust i la llengua pastosa
reblit el cos amb la sensació
no gaire agradable que produeix
aturar-se després d'un llarg viatge
en l'instat que el caminar rítmic s'acaba
tot provocant a bastament silenci
perquè endins les veus ressonin encara.

vertigen mareig angouxa i deliri
visió d'homes i dones que criden

Sempre pensava en una altra cosa
al mateix temps que pujava l'escala,
per no perdre el temps, com si volgués
trobar una resposta més endavant
—no sap quina— magnífica o sublim.
Freqüentment es corregia inclinant
les reflexions vers aquest misteri,

(catalan)

en el interior las voces reaparecían,
sabía muy bien lo que eso significaba.

vértigo mareo angustia y delirio
visión de niños moribundos que chillan

Ese estado era como volver
en sí después de una embriaguez
producida por el efecto de una droga.
Sentir el mal sabor y la lengua pastosa,
atiborrado el cuerpo con la sensación
desagradable que produce
detenerse después de un largo viaje,
en el instante que el andar rítmico finaliza,
provocando suficiente silencio
para que dentro las voces resuenen todavía.

vértigo mareo angustia y delirio
visión de hombres y mujeres que gritan

Siempre pensaba en otra cosa
al mismo tiempo que subía la escalera
para no perder el tiempo, como si quisiera
encontrar alguna respuesta más adelante
—no sabe cuál— magnífica o sublime.
A menudo se corregía inclinando
las reflexiones hacia ese misterio,

(spanish)

頭の中で多くの声がまた聞こえてきたが、それが
何を意味しているのか彼はよく知っていた。

目眩、困惑、苦悩そして妄想。 金切り声を
挙げている死にかけて子供達の幻想

その状態は、麻薬の効き目が引き起こした酔いの後、
その酔いから覚めた時のようだった。
不快な後味や口の中がねばねばになっているのを感じ、
体はその湧き起こる余り心地よくない感覚に満ちて
いくのは長い旅の後で立ち止まるようなもので、
小気味よい歩調を止めたその瞬間、彼の中で様々な
声が響くのに十分な沈黙が湧き起こるのだった。

目眩、困惑、苦悩そして妄想。 叫んでいる
男や女達の幻想

上か下か分からないが、もっと先に進めば、何か崇高な、
或いは何か素晴らしい答えを見つけられるかのように、
時間を無駄にしないために階段を登っている間、いつも
他のことを考えているのだった。
しょっちゅう、体を曲げながらこの謎についての考え方を
訂正したが、そうすると探していたものが分かった

19

llavors semblava entendre el que buscava.
D'altres, pensava de manera erràtica
i es perdia entre els seus raonaments
fins que al final deixava la recerca
d'aquell nom impossible d'esmentar.
Però quan volia allunyar aquests
pensaments perquè no el distraguessin
dels altres problemes dels quals podria
treure algun profit, llavors començaven
a aparèixer inoportuns i amb més força.
Encara que s'esforcés fins al límit
per voler ser perfecte no sabia
despullar-se de la condició
de les seves debilitats que són
l'arrel de la seva insuficiència.
Inexplicable hi ha alguna cosa
que dins la ment de Vacu neix i dolla
lentament: imatges fosques, records
perduts i un debat que prové de lluny.
Massa confús arriba al conscient
un remolí de grisos on no es pot
distingir cap forma ni cap símbol
que es deixin interpretar o traduir.
Què puja fins a la superfície
de la consciència a sol·licitar
el dret d'esdevenir real, tangible?
Vacu es commou, es retorça i s'aixeca

(catalan)

entonces parecía entender lo que buscaba.
Otras veces, pensaba de manera errática
y se perdía entre sus razonamientos
hasta que al final abandonaba la búsqueda
de ese nombre imposible de mencionar.
Pero cuando quería alejar estos
pensamientos para que no lo distrajeran
de las preocupaciones de las cuales podría
sacar algún provecho, entonces empezaban
a aparecer inoportunos y con más fuerza.
Aunque se esforzara hasta el límite
para querer ser perfecto, no sabría
despojarse de la condición
de sus debilidades, que son
la raíz de su insuficiencia.
Existe alguna cosa inexplicable
en la mente de Vacu que nace y brota
lentamente: imágenes oscuras, recuerdos
perdidos y un debate que proviene de lejos.
Demasiado confuso llega al consciente
un remolino de grises donde no se puede
distinguir forma ni símbolo alguno
que se deje interpretar o traducir.
¿Qué sube hasta la superficie
de la conciencia a solicitar
el derecho de llegar a ser real, tangible?
Vacu se conmueve, se retuerce y se levanta

(spanish)

ような気がした。
また別の時には、取り止めもなく考え続け、その言葉
に表すことが不可能な名前の探求をついに止めるまで
自分の思考の中に迷い込むのだった。
しかし、何らかの利用価値があると思える他の問題
から気を逸らされないように、これらの考え事を
遠ざけたいと思うのだったが、そういう時に限って
それらは折り悪く、より強烈に現れ始めるのだった。
彼は完璧になりたいために限界まで努力するのだったが、
彼は自分の無能さの根源である自分自身の弱さの
条件を脱ぎ去ることを知らなかった。
バクーの頭の中で生まれ、ゆっくりと芽を出していた
どうにも説明のつかない事がいくつかあった。
それは、薄暗いイメージや、失われた記憶や遠い処
から出てくる議論だった。
それは余りにも漠然としていて、表現したり解釈
したりするためのその形もシンボルも見分けること
ができない所から、灰色のつむじ風が彼の意識に
辿り着くのだった。
現実の手に触れるものにも変わろうとする権利を求めて、
何が意識の表面へと現れてくるのだろうか？
バクーは心を動かし、身をよじって石段から立ち

20

dels graons i es comença a demanar
—sense deixar mai de pujar l'escala—
quin podria ser aquest capteniment
que darrerament tant el sotja.
Per què ara se n'adona i abans no?
Vol provar de fer-lo sorgir de nou
i fa marxa enrere en el pensament
tot cercant l'instant precís quan va ser
que va començar aquell desassossec.

.....
Viu sempre dins el mateix ambient:
la llum que l'embolcalla esmorteïda,
el silenci fosc que li prem les temples...
Torna a creure que si refà el camí
podrà descobrir la causa primera
de l'efecte que l'ha dut fins aquest
present i que l'haurà de guiar d'ara
en endavant. Però després de tant
de temps, l'esforç requerit és massa
important per a un ésser com en Vacu
que ha lluitat sempre sense descans dins
la penombra d'aquesta galeria
arrossegant a coll pors i tenebres,
i perquè des d'aquell instant cercat
en els records fins aquí no hagi res
enmig del camí de retorn, aparta
qualsevol obstacle i tot pensament

(catalan)

de los peldaños y empieza a preguntarse
—sin dejar nunca de subir la escalera—
cuál podría ser esa conducta,
que últimamente tanto lo acecha.
¿Por qué ahora se da cuenta y antes no?
Quiere probar a hacerlo surgir de nuevo
y da marcha atrás en el pensamiento,
buscando el instante preciso en el que
empezó aquel desasosiego.

.....
Siempre vive dentro de la misma atmósfera:
la luz mortecina que lo envuelve,
el silencio oscuro que le presiona las sienas...
De nuevo cree que si rehace el camino
podrá descubrir la primera causa
del efecto que lo trajo hasta este
presente y que lo deberá guiar de ahora
en adelante. Pero después de tanto
tiempo, el esfuerzo requerido es demasiado
importante para un ser como Vacu,
que siempre luchó sin descanso
en la penumbra de esta galería,
arrastrando la carga de miedos y tinieblas.
Y para que desde ese instante buscado
en los recuerdos hasta aquí no haya nada
en medio del camino de retorno, aparta
cualquier obstáculo y todo pensamiento

(spanish)

上がり、そして階段を上ることを絶対に止め
ないで、ここ最近そんなにも彼を待ち伏せて、物陰
から伺っているその振る舞いとは一体何であるのか
自分に問いけ始めた。
今になって気付いたけれど、何故以前は気付かなかった
のだろうか？ それがもう一度現てくるのを試したくて、その不安な
思いが始まったのはいつだったのかその正確な瞬間を
探して自分の思考の中で後戻りしてみるのだった。

.....
彼は自分を包み込むほどの暗い明かりと、彼のこめかみを
圧迫する暗い沈黙の同じ環境の中にいつも住んでいた
ので、もし来た道を歩き直せば、今いるこの現在まで
彼を連れてきた事実の最初の原因、そしてここから先の
道標となるべき事実の最初の原因を発見することが
できるだろうと信じているのだった。

しかし、そんなにも長い時間の後、バクーのように
この階段の暗がりの中で、その両肩から恐怖と暗闇を
引きずりながら休む間もなく闘い続けてきた者にとって、
求められていた努力は余りにも大きなもので、記憶の
中で探し出されたその瞬間からこの地点までの帰り道
の途中には何も起こらないように、バクーは固く目を
閉じてあらゆる障害やありとあらゆる奇妙な思考を

estrany i tanca els ulls amb força
i amb les mans maldestres es repassa
la cara i el cos com si Vacu volgués
arrancar-se el filferro espinós que l'envolta
i l'atrapa inflingint-li dolors terribles:
talls llaurats a la pell, profunds, ferides
que travessen límits de la sofrença.

vertigen mareig angoixa i deliri
visió de nens moribunds que xiscien
vertigen mareig angoixa i deliri
visió d'homes i dones que criden

Llavors sembla que, com mai, es concentra
perquè cap distracció no el faci fora
d'aquest estat d'embadaliment crític
i es prepara per fer una nova temptativa
suprema com si es volgués revelar
contra aquesta angoixa que l'aclapara.
Però després una vegada més
torna a experimentar el buit del *no-res*,
s'atura i per uns breus moments ni pensa.
De seguida i sense saber per què
torna de nou a pujar i baixar escales
diverses vegades com si volgués
recuperar el recompte dels graons
la seguretat que dóna un món tangible.

(catalan)

extraño, mientras cierra los ojos con fuerza
y con sus torpes manos se repasa
la cara y el cuerpo como si quisiera
arrancarse el alambre de púas que lo atrapa
y lo envuelve con dolores terribles:
tajos arados en la piel, profundas heridas
que atraviesan los límites del sufrimiento.

vértigo mareo angustia y delirio
visión de niños moribundos que chillan
vértigo mareo angustia y delirio
visión de hombres y mujeres que gritan

Entonces parece que se concentra como nunca
para que ninguna distracción lo aparte
de ese delicado estado de ensimismamiento
y se prepara para hacer una nueva tentativa,
superior, como si quisiera revelarse
contra esa angustia que lo abruma.
Pero después, una vez más,
vuelve a experimentar el vacío de la *nada*.
Se para y por unos breves instantes ni piensa.
Enseguida y sin saber por qué
vuelve de nuevo a subir y bajar escaleras,
varias veces, como si quisiera
recuperar el recuento de los peldaños:
la seguridad que da un mundo tangible.

(spanish)

押しのけながら、まるで彼を捕らえてその皮膚を
引き裂き苦痛の限界に達するまで深い傷を作るような
恐ろしい痛みで彼を包み込んでいる棘だらけの針金を
引きちぎりたいかのようにぎこちない両手で顔や
体を撫でさすのだった。

目眩、困惑、苦悩そして妄想。 金切り声を
挙げている死にかけた子供達の幻想
目眩、困惑、苦悩そして妄想。 叫んでいる
男や女達の幻想

そうすると、今までこんなに集中したことがなかった
ように思え、またその深く物思いに耽った状態から気を
逸らせるものなど何もないようにも思え、そこで彼は
自分を苦しめているこの苦悩に対して反抗したいかの
ようにまた次のより崇高な試みをするための取り組み
を始めるのだった。
しかし、再度試みた後、また『無』の空虚感を味わった
彼は立ち止まってしまい、暫くはもう何も考えようと
しなかった。
すぐに、何故だかは分からないが、階段の段数をもう
一度数え直したいかのように、また登ったり降りたり
することを何度も繰り返すのだった。
そして、それは手に触れることができる世界が与えて
くれる安心感だった。

Sap que el seu viatge per la memòria ha estat un fracàs: ha tornat ben viu el desencís i s'ha sentit més miserable.

«...Un milió cent mil cinquanta-un un milió cent mil cinquanta-dos un milió cent mil cinquanta-tres...»

Aquesta galeria que s'enfilava foradada dins la roca era plena d'esquerdes obertes a les parets que regalaven un lim purulent: ferides a la pell del mateix Vacu. Aquella escala que mai no acabava l'havia abandonat enmig d'un túnel anant amunt i avall vers un final que no arribava que no s'entreveia. Corria imaginant que la suor era sang i pus pestilent que brollaven de les parets nafrades, sang espessa que a poc a poc regalimava fins els graons i li xopava els peus nus. Quan l'aire esdevenia irrespirable, feixuc, les tenebres l'embolcallaven i el pressionaven com si un colós enutjat i iracund l'hagués segrestat entre les seves mans per esclafar-lo.

(catalan)

Sabe que su viaje por la memoria ha sido un fracaso: muy vivo regresó el desengaño y se sintió más miserable.

«... Un millón cien mil cincuenta y uno un millón cien mil cincuenta y dos un millón cien mil cincuenta y tres...»

La galería, que ascendía agujereada dentro de la roca, estaba llena de grietas abiertas en las paredes, de las cuales rezumaba un limo purulento: heridas en la piel del mismo Vacu. Esa escalera que no terminaba nunca lo había abandonado en medio de un túnel, haciéndolo ir arriba y abajo hacia un final que no llegaba, que no se vislumbraba. Corría imaginando que su sudor era sangre y pus pestilente que brotaban de las paredes llagadas: sangre espesa que lentamente goteaba hasta los peldaños y le empapaba los pies desnudos. Cuando el aire se volvía irrespirable, agobiante, las tinieblas lo envolvían y lo presionaban tal si un coloso enojado e irascible lo hubiera secuestrado para aplastarlo entre sus manos.

(spanish)

彼は自分の記憶を辿る旅は失敗に終わったことを知っていたので、幻滅が非常にはっきりと目に見え、以前より自分をもっと惨めに感じた。

《ひやくじゅうまんごじゅういち、ひやくじゅうまんごじゅうに、ひやくじゅうまんごじゅうさん...》

この岩に穴を刳り貫いて上へ上へと登っている階段の壁はパツクリ口を開けたひび割れで一杯で、そこからは膿のような液体がにじみ出していたが、それはバクー自身の皮膚に付けられた傷だった。延々と果てしなく続くその階段のトンネルの中に彼はうち捨てられ、その終点に辿り着くこともできなければ、終点がかすかに見えることもないのにその中を上に行ったり下に行ったりするのだった。彼は走った、そして汗は血だと思おうと、壁から滲み出しているいやな臭いのする膿はどろっとした血に変わり、ゆっくりと石段まで滴り落ち、彼の裸の足を濡らすのだった。空気が耐え難い程に息苦しくなった時、暗闇が彼を取り巻き、怒りに燃えた巨人が彼をその両手の中で押し潰すためにすくい上げたかのように、彼を圧迫するのだった。

23

Encara que cridés i xisclés tot
demanant ajuda, terroritzat,
sabia que ningú l'escoltaria.
I quan ja no podia avançar més
ert sentia els forts batecs a les temples.
Volia aturar el cor, tranquil·litzar-lo,
perquè mai no ho faria per si sol:
lliurar-lo i ajudar-lo a reposar.
Estava en perill constant. La frontera
entre la vetlla i el somni entre el ver
i l'irreal, és una zona desprotegida
dels possibles obstacles, dels paranys
i dels abismes que a cada nou pas
es podrien obrir i, tot i que mai
no l'hi havia passat, desconfiava.
I sempre que tornava a tenir aquests
pensaments les cames li feien figa,
fent tentines pujava a poc a poc
com si un abís l'hagués de sorprendre.
En aquesta vida tan maquinal
com la seva, què passarà *demà*?
I què va passar *ahir* o *abans d'ahir*?
Endins la profunditat del cervell
de Vacu tots els pensaments es perden.
Així doncs s'esdevé que intentar
reproduir el temps és feina perduda,
tots els esforços són inútils.

(catalan)

Aunque llamara y chillara
pidiendo ayuda, aterrorizado,
sabía que nadie lo escucharía.
Y cuando ya no podía avanzar más,
yerto, sentía los fuertes latidos en las sienas.
Quería detener el corazón, tranquilizarlo,
porque nunca lo haría por sí solo:
liberarlo y ayudarlo a reposar.
Estaba en constante peligro. La frontera
entre la vigilia y el sueño, entre lo verdadero
y lo irreal, es una zona desprotegida
de eventuales obstáculos, de trampas
y de abismos que en cada nuevo paso
podrían abrirse y, aunque nunca
le había pasado, desconfiaba.
Siempre que volvía a tener esos
pensamientos, le flaqueaban las piernas;
tambaleándose subía despacio
como si un abismo lo fuera a sorprender.
En aquella vida tan maquinal
como la suya, ¿qué pasará *mañana*?
¿Y qué pasó *ayer* o *antes de ayer*?
En la profundidad del cerebro
de Vacu, todos los pensamientos se pierden.
Así pues, ocurre que intentar
reproducir el tiempo es trabajo perdido,
todos los esfuerzos son inútiles.

(spanish)

どんなに恐怖におののいて、助けを求めて叫んでも
金切り声を挙げても、誰にも聞こえないということを
彼は知っていた。
そして体が棒のようになって、もうこれ以上先に進む
ことができなくなった時、こめかみに強い脈動を感じ、
心臓が自然と落ち着きを取り戻すことはないだろうから、
その動きを止めて落ち着かせたいと、その苦しみから
解き放して休ませてやりたいと思った。
絶え間ない危険にさらされ、目覚めている時と眠って
いる時の境界線、真実と非現実との境目は起こり得る
障害や、仕掛けられた罠や一歩踏み出すごとに足下に
パッキリ開くかもしれない落とし穴から守られていない
空間で、例え一度もそんなことが起こらなかったに
しても、彼は信用していなかった。
いつもそこに考えが辿り着く度に、彼の両足は力を失い
ふらふらしながら、落とし穴が彼に不意打ちに合わせる
かのように、ゆっくりと登って行くのだった。
彼の人生のように余りにも機械的な人生では、明日には
何が起こるのだろうか？
それに、昨日や一昨日では何が起こったんだろう？
バクーの頭の奥深い処で、全ての思考は消え失せて
しまっていた。
だから、時を再現しようとするのは無駄な労力で、
全ての努力は意味をなさなかった。

24

I comença per un lleu cansament
imperceptible com quan un dia
imaginem que sentim una veu
molt llunyana que ens murmura
a cau d'orella i després de parar
atenció ho deixem estar perquè
no creiem que hagi estat real, possible.

Un bon dia quan Vacu ja no ho espera,
treu el cap tot dissimulant aquell
per què i tot es comença a esfondrar.

Tremola com si tingués fred, s'asseu,
i assetjat per la foscor, tot sol, plora.
A què ve de donar a un infeliç la llum
la vida als qui tenen l'amargor al cor
que aspiren a la mort sense que vingui?

.....

No, Vacu no ha estat mai savi en la seva
solitud mai no ha sabut què fer amb ella
i no creu amb cap més-enllà enfonsat
com es troba en el fang del infortuni.
Ara, després de tant temps, tant que ja
ni se'n recorda, gairebé no té
un instant de tranquil·litat:
en aquestes escales el percaça
el bleix dels somnis més terribles.
Llavors és difícil de fixar l'instant
precís quan Vacu va fer el pas subtil

(catalan)

Empieza por un leve cansancio,
imperceptible, como cuando un día
imaginamos que escuchamos una voz
muy lejana que nos susurra
al oído y después de prestar
atención lo dejamos estar porque
no creemos que haya sido real, posible.

Un buen día, cuando Vacu ya no lo espera,
disimulando, saca la cabeza ese
porqué y todo empieza a hundirse.

Tiembla como si tuviera frío, se sienta,
y asediado por la oscuridad, a solas, llora.
¿A qué viene dar a un infeliz la luz,
la vida a los que tienen la amargura en el corazón,
que aspiran a la muerte sin que venga?

.....

No, Vacu nunca fue sabio en su
soledad, nunca supo qué hacer con ella
y no cree en ningún más allá, hundido
como se encuentra en el barro del infortunio.
Ahora, después de tanto tiempo, tanto que ya
ni se acuerda, casi no tiene
un instante de tranquilidad:
en estas escaleras lo persigue
el jadeo de los sueños más terribles.
Entonces es difícil fijar el instante
preciso cuando Vacu hizo el paso sutil

(spanish)

ある日、我々の耳元で囁くような微かな声を聞いた
ような気がしたけれど、注意を傾けてみた後、
そんな筈はない、あり得ないと思って気にするのを
止めた時のように、それは殆ど感知できない程の
軽い疲れから始まったのだった。

それは、バクーがもう何も期待していなかったある日、
頭の中からその『何故?』というのをそっと取り
出してみたら、全てが崩れ始めていたのだった。
彼はまるで寒くてたまらないかのように震え、暗闇に
取り囲まれて座り込み、たった一人で泣きだした。
訪れてはこない死を望むような苦しみを心に抱いて
いるこんな不幸者をこの世に産み落とすとはどういう
ことなんだ?

.....
いいや、バクーはその孤独の中で一度たりとも分別の
ある者であったことはないし、孤独にどう対処すれば
いいかも分からなかったし、自分が不幸の泥の中にいる
ように、沈んでいる別世界の存在を何も信じては
いなかった。

さて、もう思い出せない程の長い、長い時間が過ぎ
去った後、殆ど一瞬たりとも平静でいられる時が
なかった。

何故なら、この階段の中で、最も恐ろしい夢の呻き声が
彼を追い回すのだった。
そうして、バクーが僅かに一線を越え、心が死を呼び
寄せたその正確な瞬間を見極めるのは難しかった。

i l'esperit apostà per la mort.
Inquiet i desitjós de conèixer,
si encara fos capaç de mirar més
enllà de si mateix i d'aixecar
la mirada per damunt de les pròpies
pors, tindria la possibilitat
de recuperar l'interès per viure.
Quan una d'aquelles veus li va parlar
fa molt de temps i pogué fer callar
el seu turment, una altra la recita
ara i reprèn el lament en el punt
en què terrible es va interrompre.

vertigen mareig angouxa i deliri
visió de nens moribunds que xiscien
vertigen mareig angouxa i deliri
visió d'homes i dones que criden

I se'ns escapa alguna cosa, quina?
Què fa que aquesta despulla s'aferra
a l'escala que pagui tan la pena?
No ha après de la tràgica experiència
que només hi trobarà sofriment?
Es manté constantment en un esforç
extrem, solitari, i sap que en aquesta
consciència en aquesta revolta
està desafiant una resposta.

(catalan)

y el espíritu apostó por la muerte.
Inquieto y deseoso de conocer,
si todavía fuera capaz de mirar más
allá de sí mismo y de levantar
la mirada por encima de los propios
miedos, tendría la posibilidad
de recuperar el interés por la vida.
Como cuando una de aquellas voces le habló
hace ya mucho tiempo y pudo acallar
su tormento, ahora otra recita
y reanuda el lamento en el punto
en el que, terrible, se interrumpió.

vértigo mareo angustia y delirio
visión de niños moribundos que chillan
vértigo mareo angustia y delirio
visión de hombres y mujeres que gritan

Y se nos escapa alguna cosa, ¿cuál?
¿Qué hace que este despojo se aferre
a la escalera, que valga tanto la pena?
¿No ha aprendido de la trágica experiencia
de que tan sólo encontrará sufrimiento?
Se mantiene constantemente en un esfuerzo
extremo, solitario, y sabe que en esa
conciencia, en esa revuelta,
está desafiando a una respuesta.

(spanish)

不安げで、知りたいという願望があった彼が、もし
自分自身よりももっと向こうを見ることができたなら、
恐怖心よりもさらに先の方に目を向けることができた
なら、生きることへの執着を取り戻せる可能性があった
だろう。
もう随分と前のことだが、それらの声の一つが彼に
話しかけた時、彼の苦しみを鎮めることができたが、
今は別の声 that それを謳い上げて、そのひどい苦しみが
中断した処からその苦痛の訴えをまた始めるのだった。

.....
目眩、困惑、苦悩そして妄想。 金切り声を
挙げている死にかけた子供達の幻想
目眩、困惑、苦悩そして妄想。 叫んでいる
男や女達の幻想

.....
そして、私達は何かを見落としている。 何だろう？
一体、何がこんな見る影もない生き物に、そんなにも
値打ちがあるかのように階段に執着させるのだろうか？
あそこには苦しみしかないということ自分の悲しい
経験から学ばなかったのだろうか？
彼は常に極端で孤独な努力を続け、その意識の中で、
そしてその反抗の中で一つの答えに立ち向かって
いるのだということを知っていたのだった。

Vacu un sac d'ossos amagrit, deforme, cruixit pel dolor del cos i la ment gairebé impossibilitat per moure's despullat brut per les incontinències nafrats la pell i els llavis, esqueixats, s'arrossega feixuc i... No podrà. Tus i s'ennuega i perboca espunts però amb les mans esgarrapa graons a l'escala amb l'ànim d'anar pujant, lentament, però, el pes de l'existència. Després de tants anys d'incessant dolor ell és en cert sentit només ferida, el seu caràcter ja és inseparable del seu sofriment: íntima unió. Dins de l'escala se senten sorolls esmorteïts una certa remor d'algú que camina que s'arrossega. S'escolta una veu gairebé inaudible d'un ésser adolorit, amb tot, no són veritablement paraules, s'assemblen més als laments d'una ferida oberta. Llavors tot el que es veu i es percep es comprimeix en una sola imatge que expressa una llarga metamorfosi resultat d'un prolongat sofriment. Arribarà a descobrir que patir es pot considerar com el seu

(catalan)

Vacu, un saco de huesos enflaquecido, deforme, ajado por el dolor del cuerpo y de la mente, casi imposibilitado para moverse, desnudo, a merced de las incontinencias, sucio, con llagas en la piel y los labios desgarrados, se arrastra pesadamente y... No podrá. Tose, se atraganta y vomita esputos, pero con las manos araña peldaños a la escalera con el ánimo de seguir subiendo, poco a poco, el peso de la existencia. Después de tantos años de incesante dolor, él es, en cierto sentido, sólo herida, su carácter es inseparable de su sufrimiento, íntima unión. En la escalera se oyen ruidos mortecinos, un cierto murmullo de alguien que anda, que se arrastra. Se escucha una voz casi inaudible de un ser herido, no obstante, no son verdaderamente palabras, se parecen más a los lamentos de una herida abierta. Entonces, todo lo que se ve y se percibe se comprime en una sola imagen que expresa una larga metamorfosis, resultado de un prolongado sufrimiento. Llegará a descubrir que padecer se puede considerar como su

(spanish)

奇形で、体と心の痛みに疲れ切って、弱り果てた骨の袋のようなバクーは、もう殆ど動くこともできず、裸で不摂生のために汚れきって、皮膚や唇は水膨れができて裂け、のろのろと体を引きずって行くのだったが、、、もう駄目だろう。彼は咳き込み、むせて痰を吐いたが、それでもまだ自分の存在の重みをかけて、ゆっくりと登り続けようとして両手で階段の石段に爪を立てるのだった。長年の絶え間ない苦痛の後、彼はある意味において単なる傷でしかなく、その性質はもう彼の苦しみとは切り離し難いほど密接に結びついていた。階段の中では、誰かが這いずって歩いているらしい気配が消え入りそうな音になって聞こえていた。誰か傷ついた人の声がほんの微かに聞こえていたが、しかしながら、それは本物の言葉ではなく、パッキリと口を開けた傷の叫び声に似ていた。その時、見えたり聞こえたりしていた全てのものは永らく続いた苦しみの結果を長い時間をかけた変貌で表した一つの姿に凝縮されていた。苦難を受けるということは、真実の運命であり、そこでは苦しむことが彼の仕事、唯一の課された仕事

27

veritable fat on el patiment
és la seva tasca, l'única tasca.
Així potser ara podria entreveure
que fins i tot ell, sofrint tant, és únic
i que està molt sol, ningú no el podrà
alleujar o sofrir en lloc seu; existeix
sols una oportunitat i radica
en la manera de com ho suportis.
Què hi farem. Amb tot, cal que segueixi?
No ho sabem. Vacu ja no té res més
a perdre en aquesta vida ridícula.
I doncs a continuació i ràpid
bordarem artificis més o menys
consistents per salvar les restes
encara que creiem sincerament
que les oportunitats de reeixir-hi
són massa reduïdes. Ho veurem.
.....
«...Un milió tres-cents quatre mil cinc
un milió tres-cents quatre mil sis
un mil... Com? Què fa aquí aquesta paret?
No pot ser no ho entenc no puc seguir.
L'escala acaba i no hi ha més graons...!»
.....
Sense poder assumir ja de cap manera
la situació proferí un crit
terrible i esgarriós com si sortís

(catalan)

verdadero sino, donde el sufrimiento
es la tarea, su única tarea.
Así, tal vez ahora podría entrever
que incluso él, padeciendo tanto, es único
y que está muy solo; nadie lo podrá
aliviar o sufrir en su lugar; existe
solamente una oportunidad y radica
en la forma de cómo lo soporte.
Qué le vamos a hacer. ¿Aun así, es necesario que
No lo sabemos. Vacu ya no tiene nada más
que perder en esta ridícula vida.
Por lo tanto, a continuación y rápido,
bordaremos artificios más o menos
consistentes para salvar los restos
aunque creemos sinceramente
que las oportunidades de tener éxito
son muy escasas. Lo veremos.
.....
«... Un millón trescientos cuatro mil cinco
un millón trescientos cuatro mil seis
un mill... ¿Cómo? ¿Qué hace aquí esta paret?
¡No puede ser, no lo entiendo, no puedo seguir!
Acaba la escalera y... ¡No hay más peldaños...!»
.....
Sin poder asumir ya de ninguna foma
la situación profirió un alarido
terrible y sobrecogedor como si saliera

(spanish)

として考えられることを発見するに至るだろう。
そうして、多分今になって、そんなにも苦しんだ彼で
さえもたった唯一の存在であり、たった一人である
ので、誰も彼の苦しみを軽くすることも彼の身代わりにな
ることもできないということが垣間見えるだろう。
そして、たった一つだけチャンスがあるのだが、それは
彼が如何にその苦しみを耐えるかということにあるの
だった。
さて、彼をどうしたものだろうか？ しかし、彼は
まだ続けるべきなのだろうか？
我々には分からないことだった。 バクーはこの
馬鹿げた人生の中でもう何も失うものがなかった。
そして、我々の方も、例え成功する可能性は非常に
少ないと本当は思っているにしても、その後、引き
続いて素早くその亡骸を収容するために大体一貫して
いる方法で最後の仕上げをすることにしよう。
結果はいずれ分かるだろう。

.....
《ひやくさんじゅうまんよんせんご、
ひやくさんじゅうまんよんせんろく、ひやく...
何だ？ この壁は何でここにあるんだ？
そんな筈ないだろう！ 分からないなあ！
前に進めないよ。 階段が終わって、もうこれ以上
石段がないんだ...!》

.....
もう、どうにも状況を把握することができなくて、
最も恐ろしい拷問にかけられた不幸な男の口から
出たかのように、凄まじい身も凍るような叫び声を

d'un condemnat a les pitjors tortures,
nascut de la profunditat de l'ésser
—fins a nosaltres ens ha commogut—
un crit que duu ràbia continguda
i dolors acumulats i macerats
durant anys, fins aquí: tota una vida.
Però, què és el que veiem? Què passa?
Després de tot aquest seu sofriment
l'envaeix un sentiment una estranya
i tranquil·la sensació de pau
com si unes mans suaus, desconegudes,
li acaroneassin les seves ferides,
les del cos endins i les de la ment:
respirar uns instants imperceptibles
sense témer les punyents conseqüències.
Llavors l'impensable: **Vacu ens somriu!**

Callem i arribats a aquest punt callem.
Davant d'un ésser sofrent que ha pogut
suportar tant de dolor tot aquest
temps, només podem callar i observar.

(Així és que sobre les realitats
més importants i alhora radicals
no se sap gran cosa, res no es pot dir.
No hi ha ahir ni demà. Tot és ara
Posa aquest final de manifest

(catalan)

de un condenado a las peores torturas,
nacido de la profundidad del ser
—incluso a nosotros nos ha conmovido—,
un grito que lleva rabia contenida
y dolores acumulados y macerados
durante años, hasta aquí: toda una vida.
¿Pero qué es lo que vemos? ¿Qué pasa?
Después de todo este sufrimiento suyo
le invade un sentimiento, una extraña
y tranquila sensación de paz,
como si unas manos suaves, desconocidas,
le acariciaran sus heridas,
las del cuerpo y las de la mente:
respirar unos instantes imperceptibles
sin temer las punzantes consecuencias.
Entonces lo impensable: ¡**Vacu nos sonríe!**

Callamos, llegados a este punto callamos.
Delante de un ser sufriente que ha podido
soportar tanto dolor durante todo este
tiempo, sólo podemos callar y observar.

(Así es que sobre las realidades
más importantes y a la vez radicales
no se sabe gran cosa, nada se puede decir.
No existen ayer ni mañana. Todo es ahora.
¿Este final pone de manifiesto

(spanish)

彼は挙げたのだが、それはその存在の奥深い処から
吹き出した叫び声で、我々の心をも揺り動かしたものだ
だったが、今まで長年にわたってこらえた怒りや
積もり積もった苦痛を伴った叫びだった。
それは彼の命の全てだった。
しかし、我々が見ているものは何なのだ？ 一体、
どうしたというのだ？
彼の全てのこの苦しみの中で、まるで見知らぬ柔らかな
手が彼の体の中の傷や心の傷をそっと労り撫でるかの
ような、妙な安らいだ感覚が彼を包み込むのだった。
それは、突き刺されるかのような感触を恐れることなく、
僅かな瞬間、静かに息をつくことだった。
その時、思いがけないことが起きた： バクーが私達の方
に微笑みかけたのだ！

.....
黙るんだ、ここまで来たら黙るんだ。この全ての時の
流れの中、そんなにも多くの苦しみを耐えぬいてきた
病める人の前で、我々は黙って見つめることしかできない
のだ。

.....
(最も大事な現実で、同時にラジカルな現実に関しては
大したことは分からないのだから、何も言うことはできない
のだ。昨日も存在しなければ、明日もない。 今が全て
なのだ。
この顕示の最後に来るものは『無』がなのか、

el *no-res* o la *transcendència* ?
La verdadera i única sortida
de l'escala es troba precisament
allà on no n'hi ha cap de possible?)
.....

(catalan)

la *nada* o la *trascendencia* ?
¿La verdadera y única salida
de la escalera se encuentra precisamente
allí dónde no hay ninguna posible?)
.....

(spanish)

『超越』なのか？ 真実の、そして唯一の階段の出口は
まさに何の可能性もない処にあるのだろうか？)

.....

30